

## 日本語学習者における「ほめ」の捉え方

### —「努力」と「才能」の意識差について—

横浜国立大学教育学研究科

川橋 葉子

#### 1. はじめに

「ほめ」は様々な視点から多くの研究が行われている。澤口・渋谷 (2014) では心理学研究の見地から、「努力よりも能力をほめた方が内発的動機づけが高まった」「失敗体験をした後に人物に対するほめを受けた子どもは、結果や過程をほめられた子どもよりも自己評価が低く、ネガティブな感情を経験し、課題に挑戦したいという程度が低かった」などの多くの先行研究を紹介している。

日本語教育における「ほめ」の研究では、日本語を用いて行われる「ほめ」そのものに関する研究や、日韓、日中、日米など、日本語母語話者と日本語学習者の比較を行い、日本と学習者の国の「ほめ」における類似点と相違点を明らかにしている対照研究などがある。

坂本・ナジェージダ (2017) は日本語母語話者に限定し「ほめ」とは何かについて述べ、人によって感じ方が異なる「お世辞」と「ほめ」は区別が難しいことに言及している。

また、張・奥村 (2018) では、日本語母語場面と日中接触場面における女子大学生の「ほめ」に対する対照研究を行い、日本語母語話者の場合、「姿・態度」への「ほめ」が多いことを明らかにした。さらに、日本語非母語話者において、見てすぐに評価できるものの方がほめやすいのではないかと指摘している。山口 (2015) では外見、性格などに対する「ほめ」についてどう受け取るかを文化的な背景を踏まえ、肯定的なイメージを持つ、多くの人から好まれる評価語があることに言及している。

しかし、いずれも日常会話の中での「ほめ」を扱っており、教師から学習者への学習成果に対する「ほめ」に関して、日本語母語話者と日本語非母語話者が同じように感じているかの対照研究は見当たらない。

そこで、本稿では国籍の違いが「ほめ」の捉え方に差異を生んでいるかに焦点をあて、検証した。

#### 2. 調査の方法・対象

##### 2.1. アンケート調査

###### 2.1.1. 対象者

日本在住の日本語非母語話者を対象に、Google Formを用いたアンケート調査を行い、53名から回答を得た。調査期間は2021年12月22日から24日である。

###### 2.1.2. 調査内容

- ①国籍
- ②日本語能力試験 (JLPT) 取得級
- ③日本滞在歴 (「6か月未満」～「3年1か月以上」の1か月きざみの選択式)
- ④日本語学習歴 (「6か月未満」～「3年1か月以上」の1か月きざみの選択式)
- ⑤スピーチ大会出場時の教師の声掛け (13問) を「ほめ」と感じるか (5件法)
  1. ほめられていると思わない
  2. ほめられていると思うが、うれしくない
  3. ほめられていると思うが、あまりうれしくない
  4. ほめられていると思うし、うれしい
  5. ほめられていると思うし、とてもうれしい

##### 2.2. 追加アンケート調査

###### 2.2.1. 対象者

ロシア国籍の日本語非母語話者 (ロシア)、モンゴル国籍の日本語非母語話者 (モンゴル)、日本語母語話者 (日本) を対象に、Google Form またはメールを用いたアンケート調査を行った。ロシア7名、モンゴル5名、日本12名から回答を得た。調査期間は2022年1月から7月である。

###### 2.2.2. 調査内容

- ①「よくがんばったね」と「才能があるね」はどちらがほめられていると感じるか (2件法)
- ②理由 (記述式)

3. 結果

3.1. アンケート調査結果

3.1.1. ①国籍

インドネシア (7名) ・ウズベキスタン (1名) ・中国 (2名) ・ネパール (1名) ・バングラディッシュ (4名) ・ベトナム (20名) ・ミャンマー (4名) ・モンゴル (7名) ・ロシア (7名)

3.1.2. ②JLPT 取得級 ・③日本滞在歴 ・④日本語学習歴

N2 取得者 (N2) が最も多く、49.1%を占めた。N1 取得者 (N1) は中国国籍の日本語非母語話者 (中国) とロシアのみであった。国籍と取得級に偏りがあるが日本語学習歴で検証すると N1 の 83.3%にあたる 5 名が「3年1か月以上」と回答し相関性がある。しかし、他のレベルで検証すると、N2 では「1年」～「3年1か月」、N3 では「1年2か月」～「3年1か月」と様々で相関性は見られなかった。

表1 JLPT 取得級

レベル		人数 (名)	割合 (%)
高 ↑ ↓ 低	N1	6	11.3
	N2	26	49.1
	N3	16	30.2
	N4	1	1.9
取得なし		4	7.5
合計		53	100.0

表2 N1 取得者

①	③	④
中国	1年10か月	2年3か月
中国	3年1か月以上	3年1か月以上
ロシア	2年8か月	3年1か月以上
ロシア	1年1か月	3年1か月以上
ロシア	1年2か月	3年1か月以上
ロシア	3年1か月以上	3年1か月以上

表3 N2 取得者

①	③	④
インドネシア	1年9か月	2年
インドネシア	1年9か月	3年1か月以上
インドネシア	1年9か月	3年1か月以上
インドネシア	1年9か月	3年1か月以上
インドネシア	1年9か月	3年1か月以上

バングラディッシュ	1年	1年
ベトナム	1年8か月	2年
ベトナム	1年8か月	2年6か月
ベトナム	1年9か月	1年9か月
ベトナム	1年9か月	1年9か月
ベトナム	1年9か月	2年4か月
ベトナム	1年9か月	2年5か月
ベトナム	1年9か月	2年6か月
ベトナム	1年9か月	3年1か月以上
ベトナム	1年10か月	2年7か月
ベトナム	1年11か月	2年7か月
ミャンマー	1年9か月	2年6か月
モンゴル	1年7か月	2年
モンゴル	1年7か月	2年
モンゴル	1年8か月	2年2か月
モンゴル	1年8か月	2年3か月
モンゴル	1年8か月	2年8か月
モンゴル	1年9か月	3年
ロシア	2年3か月	3年1か月以上
ロシア	1年3か月	3年1か月以上
ロシア	6か月未満	3年1か月以上

表4 N3 取得者

①	③	④
インドネシア	1年8か月	3年1か月以上
バングラディッシュ	1年	1年6か月
バングラディッシュ	1年	2年
ベトナム	1年	2年
ベトナム	1年	2年6か月
ベトナム	1年2か月	2年9か月
ベトナム	1年4か月	3年
ベトナム	1年6か月	1年9か月
ベトナム	1年7か月	2年
ベトナム	1年9か月	1年7か月
ベトナム	1年9か月	2年5か月
ベトナム	1年9か月	2年5か月
ベトナム	1年10か月	3年
ミャンマー	1年2か月	1年2か月
ミャンマー	1年2か月	2年
ミャンマー	1年9か月	2年

日本語学習者における「ほめ」の捉え方

表5 N4取得者・未取得者

①	②	③	④
バングラディシュ	N4	1年	1年6か月
インドネシア	未	1年8か月	3年1か月以上
ウズベキスタン	未	1年2か月	1年
ネパール	未	1年2か月	1年2か月
バングラディシュ	未	1年	1年6か月
モンゴル	未	2年	10か月

3.1.3. ⑤スピーチ大会出場時の教師の声掛けを「ほめ」と感じるか

教師からの声掛けに対し、5件法で回答を得た。

- (1) ○○さんならだいじょうぶだと思っているよ。
- (2) がんばっているね。
- (3) ○○さんならできるよ。
- (4) みんなのお手本にしていいい？ (1対1で)
- (5) ○○さんを見習いましょう。(みんなの前で)
- (6) さすが、○○さん。(上手にできた時)
- (7) さすが、○○さん。(上手にできなかった時)
- (8) (発表、) すごくよかったね。(1対1で)
- (9) (発表、) すごくよかったね。(みんなの前で)
- (10) とても上手だね。(1対1で)
- (11) とても上手だね。(みんなの前で)
- (12) 才能があるね。(1対1で)
- (13) 才能があるね。(みんなの前で)

(参考 猪俣・茅野 (2021) )

(7) において「1. ほめられていると思わない」と回答したのは24名であった。国別で見ると、インドネシア1名、ベトナム8名、ミャンマー2名、モンゴル6名、ロシア7名で、JLPT 級別で見ると、N1は5名(N1全体の83.3%)、N2は16名(N2全体の61.5%)、N3では3名(N3全体の18.8%)という結果になった。

また、「5. ほめられていると思うし、とてもうれしい」と回答したのは12名で、国別で見るとウズベキスタン1名、ネパール1名、バングラディシュ3名、ベトナム6名、ミャンマー1名で、JLPT 級別で見ると、N2は3名(N2全体の11.5%)、N3は6名(N3全体の37.5%)、N4は1名(N4全体の100%)、未取得は2名(未取得全体の50.0%)であった。さらに、この12名は(6)で

も全員が「5」と回答していた。したがって、これは「国籍」による差異とはとらえられず、N2レベルに達していない語彙力において「さすが」の意味が捉えられていない「レベル」による差異であると考えられる。

「1対1(みんなのいないところで)」または、「みんなの前で」という異なった場面における声掛けについては、回答に2段階以上の差異が見られたものを表にまとめた。

表6 「ほめ」と感じるか (4) (5)

①	②	(4)		(5)
インドネシア	N2	3	>	1
インドネシア	未	4	>	2
中国	N1	1	<	3
ベトナム	N2	3	>	1
ベトナム	N2	5	>	1
モンゴル	N2	1	<	3
モンゴル	N2	4	>	1
ロシア	N2	5	>	3

表7 「ほめ」と感じるか (8) (9)

①	②	(8)		(9)
インドネシア	N2	4	>	2
インドネシア	未	3	<	5
ベトナム	N2	1	<	4
ベトナム	N2	5	>	3

表8 「ほめ」と感じるか (10) (11)

①	②	(10)		(11)
インドネシア	N2	2	<	4
インドネシア	未	3	<	5
ベトナム	N2	3	<	5
ベトナム	N2	2	<	4
ベトナム	N2	3	<	5
モンゴル	N2	3	<	5
モンゴル	N2	4	>	2

表9 「ほめ」と感じるか (12) (13)

①	②	(12)		(13)
インドネシア	N2	4	>	2
インドネシア	未	3	<	5
モンゴル	N2	4	>	2

## 日本語学習者における「ほめ」の捉え方

「1対1 (みんなのいないところで)」または、「みんなの前で」という場面別の声掛けについて検証する。「1対1 (みんなのいないところで)」の場面での声掛けに対して(4)では12名(22.6%)、(8)では10名(18.9%)、(10)では11名(20.8%)、(12)では9名(17.0%)がよりほめられていると回答している。そして、「みんなの前で」という場面の声掛けでは(5)では11名(20.8%)、(9)では9名(17.0%)、(11)では9名(17.0%)、(13)では9名(17.0%)がよりほめられていると回答した。(4)(5)では30名(56.6%)、(8)(9)では34名(64.1%)、(10)(11)では33名(62.2%)、(12)(13)では35名(66.0%)が同じであると回答した。この結果、国籍による差異は示されず、1対1、またはみんなの前での声掛けによる差異もないと考えられる。

「1」という回答が示されるものがいくつか見られた。(2)の「がんばっているね」という声掛けもそのうちのひとつである。これについて(12)(13)と比較し、検証する。ウズベキスタン、ネパール、バングラディシュ、ミャンマー、中国は3つの声掛けに2段階以上の差異はみられず、回答に「1」「2」はなく、ほぼすべてを同じように「ほめ」と捉えていることが見られた。ベトナムは(2)に対し2名(10.0%)が「1」、(12)(13)のいずれかに2名(10.0%)が「1」と回答した。しかし、この4名以外では2段階以上の差異は見られず、他回答者に「1」「2」はなく、ほぼすべてを同じように「ほめ」と捉えていることが見られた。インドネシアは(2)と(12)に対し、それぞれ1名が「1」と回答した。しかし、そのうちの1名は(1)～(3)で「1」、そして全ての回答に「4」「5」がなく、もう1名は(1)(4)(5)(10)(12)で「1」と回答していることから、個人差であると考えられる。

そして、モンゴルは(2)が「5」「13」が「1」という回答も見られたが、(2)で「1」～「3」の回答が4名(57.1%)と過半数を超えた。また、ロシアも(2)で「5」との回答はなく、「1」～「3」の回答が5名(71.4%)と過半数を超えた。そこで、ロシアとモンゴル、さらに、日本語非母語話者の国籍による差異だけでなく、日本語母語話者との比較も行うため、日本も対象に追加アンケート調査を行った。

### 3.2. 追加アンケート調査結果

#### 3.2.1. ロシア

ロシアは7名の回答を得た。そのうち「才能があるね」という声掛けをよりほめられているとした回答は5名(71.4%)で過半数を超えた。その理由として、短く「才能を認めてくれると嬉しいです。」とした回答もあったが、「才能があると認められることで、自分の能力が認められたと感じ、さらに上を目指せると実感できるため、「才能があるね」っていうのはより深いほめ方だと思います」、「「才能があるね」は能力を認められているような感じがするから」などの回答があった。また「「よく頑張ったね」は慰めにしか聞こえない」「私の考えでは、[頑張る、努力する]というのは当たり前」という回答もみられた。(記述式回答は原文まま)

#### 3.2.2. モンゴル

モンゴルは4名の回答を得た。そのうち「才能があるね」という声掛けをよりほめられているとした回答は3名(75.0%)で過半数を超えた。理由には「そう言われたら、これよりできると感じて、心地よくなると思う。」「才能というのは努力の結果だと思っています。」という回答があった。また、「よくがんばったね」を選んだ回答者の中には、理由として「モンゴルの諺で“自分が努力すれば運命も頑張る”という言葉があります。だから努力、頑張るという言葉が大好きです。」という回答があった。「頑張るっていうことは当たり前のことになったしまいました。」との回答もあった。(記述式回答は原文まま)

#### 3.2.3. 日本

一方、日本は「よく頑張ったね」という声掛けをよりほめられているとした回答が8名(66.7%)で過半数を超え、「才能があるね」は4名(33.3%)にとどまり、ロシアやモンゴルとは反対の結果であった。「よく頑張ったね」を選択した理由には、「取り組みを褒めてもらっている感じがする」、「過程を評価されているから」「うまくいった、いってないに関わらず頑張りを認めてくれた感じがするから」、そして「自分は天才型ではないと思っているため、自分の頑張りが認められる方が嬉しいから」という回答があった。

## 4. 結果

「努力」と「才能」の観点でロシアとモンゴルと日本では「ほめ」に対する価値観の差異が見られた。日本では過程を重視するのに対し、ロシアとモンゴルでは「努力は当たり前」という回答から、結果を重視する傾向が

## 日本語学習者における「ほめ」の捉え方

見られた。さらに、モンゴルでは「才能というのは努力の結果」という回答があり、「努力」と「才能」を分けて考えておらず、「努力」の延長線上に「才能」があるにとらえている可能性も示された。

「自分が努力すれば運命も頑張る」という諺の「運命」が自分ではコントロールのできない「才能」や「運」を指すのであるなら、これも「努力」によって「才能」に変化をもたらすことができるということを示唆している可能性もある。

また、日本では小さいころから失敗したときに「よくがんばったね」「次はもっとがんばろうね」という声掛けが行われることなどの、文化的背景が関係しているのではないかと考えられる。ロシアの社会では、それとは異なり、才能のある人ほど成功しやすく、ある程度の結果を出さなければ努力を認めてもらえない社会構造になっていると聞いた。そのため、ロシアは「努力より才能を認められたい」と考えるのではないかと考察する。

### 5. おわりに

現在、文部科学省でも子育てや外国にルーツを持つ児童の情意支援の一環として「努力ほめ」を推奨している。しかし、ロシアやモンゴルのような文化的背景を持つ場合でも、「努力ほめ」が推奨されるべきで、「才能ほめ」によってネガティブな影響が出るのかということに疑問を持ち、興味を覚えた。今回は調査対象が少なかったため、調査対象の国籍、調査人数を増やし、さらに詳細に文化的な違いによる「ほめ」の側面から見た「努力」と「才能」の意識差を明らかにすることを今後の課題としたい。

### 参考文献

- 猪俣由衣・茅野理恵 (2021) 「自尊感情と教師からの「ほめ」に対する反応との関連」『信州心理臨床紀要』20, pp.27-50
- 坂本恵・ナジェージダウェインベルグ (2017) 『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』43, pp.121 - 136
- 澤口右京・渋谷 昌三 (2014) 「「ほめ」に関する心理学的研究の動向」『目白大学心理学研究』10, pp 93 - 104
- 張梓旋・奥村圭子 (2019) 「日本語母語場面と日中接触場面における女子大学生の「ほめ」に関する対照研究」『高等教育と国際化：山梨大学教育国際化推進機構紀要年報』5, pp.8-16,
- 山口和代 (2015) 「留学生の「ほめ」にみられる社会・文化的価値観の影響」『南山大学紀要 アカデミア 人文・自然科学編』10, pp.137-150,
- 文部科学省一Ⅱ 日本語支援の考え方とその方法  
<[https://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_icsFiles/afieldfile/2015/10/06/1235804\\_002.pdf](https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2015/10/06/1235804_002.pdf)> (最終閲覧 2022 年 11 月 10 日)